

とうもろこし(サイレージ用) 「SH15445」

1 特性の概要

(1) 来歴

雪印種苗(株)が育成した単交雑(デント×デント、構成系統は不明)の一代雑種品種。平成29年に育成者が品種比較予備検定試験を行った。有望性が認められ、平成30-令和2年に北農研において品種比較試験を行った。また、育成者が平成30-令和1年に雪印種苗北海道研究農場(長沼町)において、同準現地試験を行った。さらに、北農研において、令和1-2年にすす紋病抵抗性に関する特性検定試験を行った。

(2) 特性(「北交65号」と比較)

- 1) 早晚性：絹糸抽出期は1日遅く、総体乾物率は並。熟期は“晩生の早”に属する(表1, 2)。
- 2) 耐倒伏性：並である(表1)。
- 3) 発芽・初期生育：発芽は並、初期生育はやや劣る(表1)。
- 4) 収量性・乾物特性：乾物総重、推定TDN収量は多い。乾雌穂重割合、乾物中TDN割合は並(表2)。
- 5) 形態特性：稈長、着雌穂高は高い(表1)。
- 6) 耐病性：特性検定試験によるすす紋病抵抗性は“やや強”である(表3)。根腐病病徴の発生は極軽微であった(表1)。

表1 生育特性¹⁾

場所	品種名	発芽期	初期	絹糸	稈長	着雌	倒伏 ^{1),2)}	すす ¹⁾	ごま ¹⁾	根腐病 ^{1),3)}	収穫時	有効雌
		(月日)	生育	抽出期	(cm)	穂高	個体率	紋病	葉枯病	病徴	熟度	穂割合
<普及対象地域>												
北農研	SH15445	5.26	4.2	8.03	241	115	50.0	1.0	1.0	0.0	黄初	100
(2カ年) ⁴⁾	北交65号	5.26	5.0	8.02	237	108	50.2	1.0	1.0	0.0	黄初	98
雪印長沼	SH15445	5.20	6.8	8.03	232	103	49.2	3.5	1.7	1.7	黄中後	100
(2カ年) ⁵⁾	北交65号	5.21	7.5	8.03	216	93	43.3	2.8	1.5	0.0	黄中	100
総平均 ⁶⁾	SH15445	5.23	5.5	8.03	237	109	49.6	2.3	1.3	0.8	黄中	100
	北交65号	5.23	6.3	8.02	227	100	46.8	1.9	1.3	0.0	黄初中	99

- 1) 発生の見られた試験の平均 2) 倒伏と折損の合計 3) 収穫直前での個体率
- 4) H30, R2年の平均。R1は著しい発芽揃い不良により除外
- 5) 雪印種苗北海道研究農場 H30, R1年の平均。R2年は種子取り違いのため除外
- 6) 北農研(H30, R2年)、雪印長沼(H30, R1年)の総平均

表2 収量特性

場所	品種名	10a当たり収量(kg)								乾物率(%)			乾物中	
		同左		乾物		同左		推定 ¹⁾	同左		乾雌穂	TDN		
		生総重	比	茎葉	雌穂	総体	比		比	重割合			割合	
<普及対象地域>														
北農研	SH15445	7539	117	1021	1182	2203	111	1599	111	19.6	51.4	29.4	53.9	72.6
(2カ年) ²⁾	北交65号	6424	100	915	1068	1983	100	1440	100	20.9	53.8	31.1	53.8	72.6
雪印長沼	SH15445	5845	109	845	1032	1876	111	1368	111	21.5	54.4	32.2	55.0	73.0
(2カ年) ³⁾	北交65号	5354	100	760	927	1688	100	1231	100	21.6	51.4	31.7	54.8	72.9
総平均 ⁴⁾	SH15445	6692	114	933	1107	2040	111	1484	111	20.5	52.9	30.8	54.5	72.8
	北交65号	5889	100	838	998	1835	100	1336	100	21.2	52.6	31.4	54.3	72.8

- 1) 新得方式(推定TDN=乾物茎葉収量×0.582+乾物雌穂収量×0.850)
- 2) H30, R2年の平均。R1は著しい発芽揃い不良により除外
- 3) 雪印種苗北海道研究農場 H30, R1年の平均。R2年は種子取り違いのため除外
- 4) 北農研(H30, R2年)、雪印長沼(H30, R1年)の総平均

表3 病害抵抗性に関する特性検定試験結果（北農研）¹⁾

品種名	すす紋病（1:無～9:甚） ¹⁾					
	R1		R2		平均	判定
	9/7	判定	9/17	判定		
SH15445	4.7	やや強	6.0	やや強	5.4	やや強
北交65号	4.2	強	5.3	強	4.8	強
3540	6.8	弱	7.8	弱	7.3	弱

1) 試験区2畦に対し感染源系統1畦を配置し、感染源系統に粉碎罹病葉の懸濁液を接種して感染源とした。すす紋病抵抗性の基準品種との比較により“極強”～“極弱”の範囲で判定を示した。「3540」は晩生品種におけるすす紋病抵抗性“弱”の基準品種である。

(3) 長所及び短所

長所は乾物総重、推定 TDN 収量が多い。すす紋病抵抗性が“やや強”。短所は特になし。

(4) サイレージ用

2 候補理由

とうもろこしサイレージは高栄養自給粗飼料として高く評価されており、輸入穀物価格高騰の情勢に対応し、飼料自給率の向上を図る必要があることから、その重要性が増している。「SH15445」の早晩性は“晩生の早”に属し、乾物総重、推定 TDN 収量が「北交 65 号」より高い。また、すす紋病抵抗性は“やや強”である。このため普及対象地域において良質サイレージ原料の安定栽培と生産性向上に貢献することが期待できる。

3 普及

(1) 栽培適地

道央中部（上川を除く）、道央南部及び道南地域

(2) 普及見込み面積

450ha（作付け総面積 56,300ha、0.8%）

(3) 北海道農業試験会議（成績会議）における判定

普及推進事項

4 その他特記事項

5 参考データ

(写真)

とうもろこし(サイレージ用) 「SH15445」



「SH15445」の草姿